

防災部会視察報告

防災部会 児島 秀行

1. はじめに

防災部会では 2013 年 11 月 23 日に桜江大橋周辺および日貫視察を行った。

1)日時 平成 25 年 11 月 23 日

2)目的地 桜江大橋周辺（江津市桜江町）および日貫川（邑智郡邑南町）

3)目的 桜江大橋周辺における昭和 47 年の豪雨災害時の写真撮影位置を訪ね、当時の水位を体感する。また、昭和 58 年豪雨で被災し、今年 8 月 24 日豪雨で再度被害を受けた日貫地区を視察するとともに平岡自治会長さん、鹿野公民館館長さんに話を伺い、中山間地における対策および避難のありかた等について考える。

4)参加者 林、月森、加藤、田中、畑、長嶺、児島

5)スケジュール

11 月 23 日

7:30 松江出発 田中、児島

8:20 キララ多伎 長嶺氏合流

8:50 大田市 9号沿い ショッピングモール 月森、畑氏 合流

10:00 川戸駅 林、加藤氏合流 3台に分乗し桜江大橋周辺視察。

11:30 道の駅 因原で昼食
昭和 47 年 7 月洪水実績水深視察

13:00 日貫着 視察

14:00 小学校前にて平岡自治会長さんに話を伺う（30分程度）

15:30~16:00 浜田道旭インターで解散 帰路

2. 桜江大橋周辺視察

川戸駅前に集合し昭和 47 年の豪雨災害時の写真撮影位置を訪ね、当時の水位を体感した。災害時の写真は「川戸地区昭和 47 年豪雨災害 写真集・新聞掲載記事」川戸地区昭和 47 年豪雨災害を語り継ぐ会編のなかから使用させていただいた。当時の写真と現在の写真を比較すると災害の状況が実感できる。地元のおじいさんの話では孫に話すが信じてもらえないそうだ。写真-1 は桜江大橋を俯瞰する写真で改築がなされているものの桁の高さはほぼ同じで当時の水位が良く理解できる。写真-2 の高尾地区は周囲に比べ高く八戸川は遥か下を流れている印象であり、写真がなければここまで水が来たとは信じられない。写真-3 谷住郷においては高床式の家屋が見られ、災害を意識したものと同推察できる。



写真-1 桜江大橋（よく見ると桜江大橋は改築されている）



写真-2 三江線高尾地区（閘門が新設されていた）



谷住郷小学校付近



写真-3 元谷住郷小学校付近

川戸駅や農協建物には被災水位の表示がなされていたが「知る人ぞ知る」という残念な表示状況であり、一般の人にも目につくような取組が必要である。そんななかで西教寺さんでは災害写真のパネル展示を行い小学生や地区住民に災害の恐ろしさを伝えていた。地域で災害を伝承し寺田寅彦先生の名言「天災は忘れた頃にやってくる」ではなく「天災をわすれない」努力が必要である。防災部会においても災害写真を収集し現況写真と合わせ防災教育資料としたい。



写真-4 西教寺での災害写真パネル展示

写真-4 西教寺での災害写真パネル展示



写真-5 今回の視察メンバー

(道の駅川本 昭和 47 年洪水 実績浸水水深表示板まえにて)

3. 日貫川周辺視察

日貫川は島根県の中心部に位置する一級河川江の川の 2 次支線で、その源を原山、横宇津山に発し、江津市桜江町で八戸川に注ぎ、桜江町川戸で江川に注ぐ流域面積 35 k m^2 幹線流路延長 12 k m の中小河川である。昭和 58 年 7 月の大雨は日本海を東進した低気圧に伴う前線が中国地方に停滞して前線活動が活発となったもので桜江町では 23 日零時から 2 時の 2 時間で 131 mm の激しい雨となった。22 日 22 時から 23 日 14 時の降水量は 297 mm に達し被災した。復旧助成事業においては支川(高尾瀬川)を含む 5,158.9 m の河積の拡大、流路の是正がおこなわれた。改修計画諸元によると計画雨

量 290mm/日、超過確率 1/60 である（以上「昭和 58 年 7 月豪雨」災害 河川災害復旧助成事業 日貫川 島根県より抜粋）。

昭和 58 年 7 月の被災から 30 年経過した平成 25 年 8 月 24 日の豪雨では日雨量 386 mm、24 日 3 時からの 2 時間で 147mm（気象庁桜江町）を経験したが、そのときの模様を平岡自治会長さん、鹿野公民館館長さんに話を伺った。以下にその要約をまとめた。

- 1) 雨量は昭和 58 年より多かったが日貫川はほぼ満水状態で流下し溢れることはなかった。これは改良復旧の成果である。
- 2) 河川護岸は枝沢からの合流地点や越波により数箇所被災した。枝沢からの出水で道路冠水や家屋の床上浸水・損壊が発生した。
- 3) 24 日午前 2 時すぎから雨が激しくなり枝沢からの出水による床上浸水が発生、2 時 45 分ごろから消防団が避難をうながし公民館へ避難が始まった。3 時 45 分日貫中央自治会に避難勧告、4 時 45 分に邑南町全体に避難勧告がだされた。
- 4) 7 月 14 日に全集落が参加する避難訓練をおこなっていたことが役に立った。事前に一番安全な方法を頭に描くことによる逃げ方や助け方の予備知識が大事である。
- 5) 自治会で携帯番号を把握しているほか班長は班内の災害弱者のことを把握している。今回も 24 日昼すぎまで連絡のつかない家があり心配した。
- 6) 消防団員は 35 名であるが稼働は 20 名程度である。
- 7) 昭和 58 年の災害については子供や孫に話している。災害を考える会で講演会を開く予定である。

今回の豪雨では避難がうまくいき怪我人が出なかったことは幸いであった。しかし、公民館報によると土石流による家屋損壊が発生していることや道路面は冠水した箇所も存在し、豪雨時の夜間避難は危険性が高いと思われる。避難が困難な人は家の中で川や崖から離れた二階の部屋で過ごすなどの対応がなされていたが、明るいうちの早期避難か小学校など比較的近い場所を一時避難場所とし、安全を確認して公民館に移動することなどを検討する必要がある。行政の指示を待つのではなく積極的な活動が地区の安全・安心を高めている事例として紹介していきたい。



写真-5 平岡自治会長さん（中央）と鹿野公民館館長さん（手前右）

日貫小学校前にて